

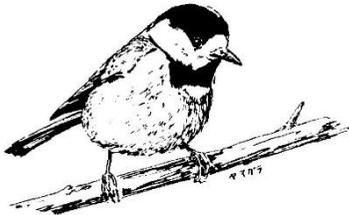
三滝で見られる野鳥

〇年中見られる野鳥



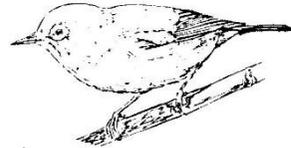
シジュウカラ

取り付けた巣箱をよく利用します。胸から腹にかけて黒いネクタイをしています。ネクタイが太いのがお父さん、細いのがお母さんです。



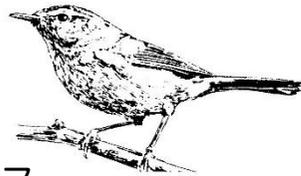
ヤマガラ

これも巣箱をよく利用して、シジュウカラと競争になります。ドングリなど木の実を食べるときは、足で器用に押さえて、くちばしで、コンコンと割って食べます。



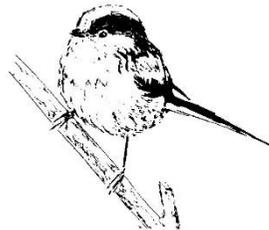
メジロ

三滝のシンボルともいえるほど、多くいます。小さなお椀型の巣を枝先にハンモックのようにつるしてかけますが、たくさんあるのに、夏場には目立ちません。



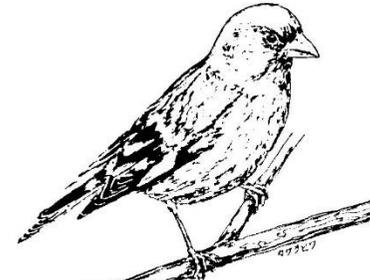
ウグイス

さえずりは、ある程度学習されるものなでしょう。三滝では、代々のウグイスが『ホーホケキョケキョ』と、鳴いています。



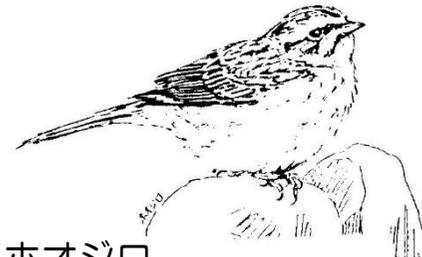
エナガ

ジュリッシュリッ、ジリリリと、多彩な声を持っています。くちばしが大変短く、柄長と書くように、尾が長い小鳥です。成功すれば、一度に10羽近くのヒナが巣立ちます。



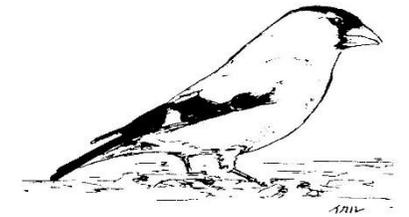
カワラビラ

キリキリコロコロ、ピーンとさえずり、飛ぶと黄色い斑が目立ちます。



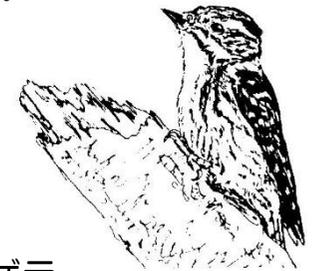
ホオジロ

森と野原の境になるような場所、だから竜王公園との境に近い、管理棟周辺に多く見られます。樹の頂で、よく通る声でさえずっています。



イカル

ええっ！これが野鳥？とびっくりするくらい、飼い鳥の文鳥に似た鳥です。大きなくちばしで、木の実を割って食べますが、鳴き声はヒーヒーヒーヒーと、透き通る声でよく響きます。アスレチック周辺の高い松の木のとっぺんでさえずっている姿をよく見かけます。



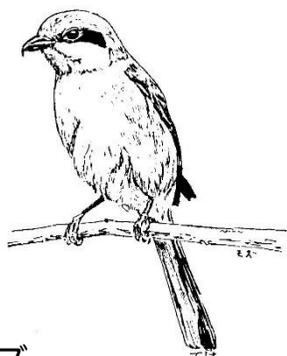
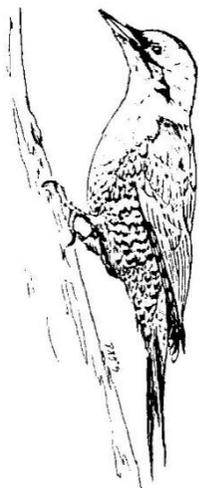
コゲラ

ギーギーという声があると、この小型のキツツキです。樹のまわりを、くちばしでつつきながら、虫餌をあさっています。

アオゲラ

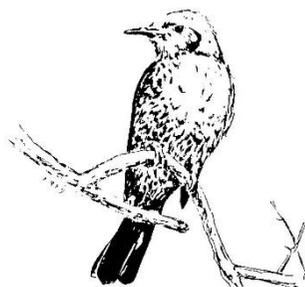
大型のキツツキ
です。

生きた樹に巣穴
をうがちます。
ピョーッピョー
ッと、叫ぶよう
に飛びながら鳴
きます。アオと
いっても美しい
緑色をしています。



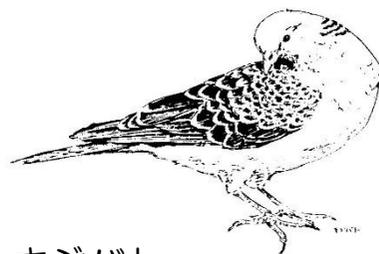
モズ

小さな猛禽類（タカなどの仲間）と
いわれるくらい、激しい気性の鳥。
餌は、虫・トカゲ・カエルに加えて、
場合によっては、小鳥も襲います。
管理棟周辺に毎年巣をかけていま
す。



ヒヨドリ

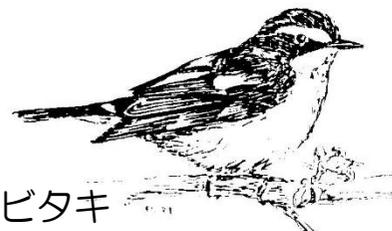
餌場を作れば必ず陣取っ
て、独り占めしようとする
暴君です。でも、冬場のヒ
ヨドリと、夏場にいるもの
とは、どうやら違う個体の
ようです。



キジバト

山鳩ともいわれます。三滝に
はドバトもありますが、キジバ
トはドバトのように、群れ飛
ぶことはありません。

○夏に見られる野鳥

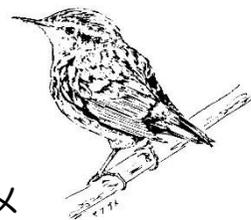
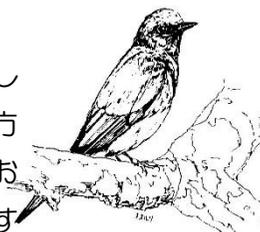


キビタキ

反射板から少し谷の方におりたあ
たりに居着く、夏鳥です。喉と腰の
オレンジ色がなんともいえすきれ
いです。

オオルリ

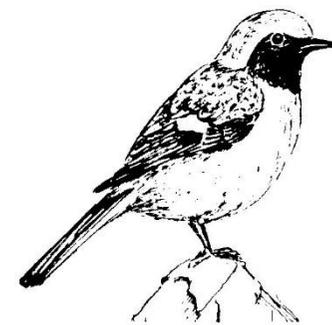
幸せの青い鳥は、
この鳥のことです
しょうか。黒谷の方
で、毎年営巣し、お
父さんがとてもす
てきな声でさえす
ります。



ヤブサメ

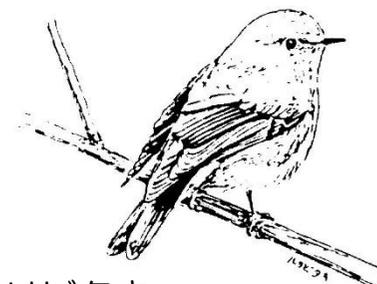
シーシーシーと、虫の
ような鳴き声でさえする
ウグイスの仲間です。小さ
い身体ですが、三滝にも早
ければ3月末にはやって
くる夏鳥一番乗りです。

○冬に見られる野鳥



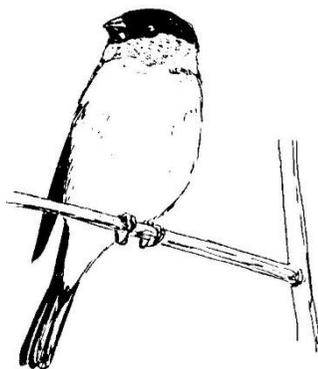
ジョウビタキ

羽根についている白い紋が目立つ、可
愛らしい冬鳥です。冬でも、虫餌をよ
く食べあまり人を恐れないので、すぐ
そばまで近寄っても逃げないことも
あります。友愛広場にも、冒険橋の下
にも、イノシシ谷にも必ず別々の個体
が、縄張りを作っています。



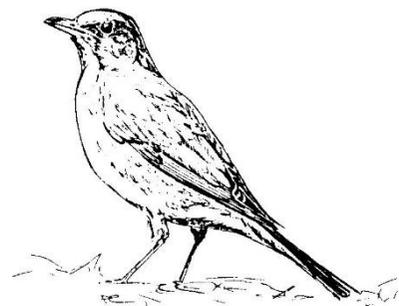
ルリビタキ

ジョウビタキに体型も行動場所もよ
く似ています。オスの成鳥は、とても
きれいな青い冬鳥です。ジョウビタキ
の目を避けるように、ググググッと
鳴いては、飛び回っています。



ウソ

フィフィと澄んだ口笛（うそ）のような声で鳴きます。3月の時期に桜の芽がふくらむと、おいしそうについばんでいます。桜の色が乗り移ったかのような、美しいピンクの喉をしています。



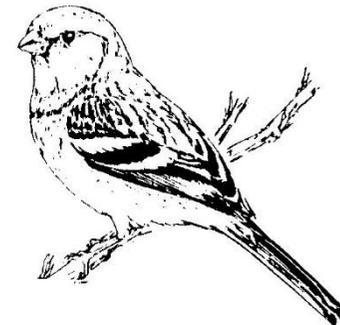
シロハラ

ガサッガサッという大きな音をさせながら、落ち葉をひっくり返りしては、虫餌をさがしている大きなツグミの仲間です。警戒心が強く、ピヨピヨピヨピヨポロポロポロと形容しがたい声を出しては、逃げていきます。



ミヤマホオジロ

スズメに似ていますが、緊張すると、パッと冠羽を立てて、眉と喉の部分に鮮やかな黄色が目立ちます。



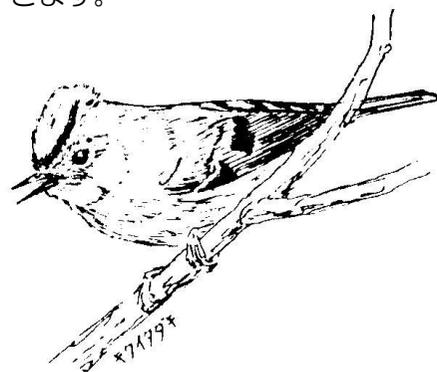
ベニマシコ

赤い冬鳥です。くちばしが短く、尾が長い鳥ですが、友愛広場の上側の草地で、イノコツチ・ヨモギなどの、草の実を食べています。



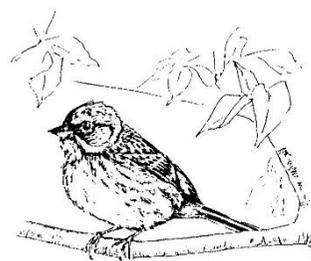
マヒワ

オスはみごとな黄色の小さな冬鳥です。群れで飛び回り、そのようすはまるで孫悟空の乗る金斗雲のようです。三滝では、ヤジャブシの実に群がっています。



クイタダキ

日本で一番小さな小鳥です。イノシシ谷周辺の杉やヒノキなどの針葉樹で、チュリリリリという声をあげながら、飛び回っています。



アオジ

地面でひそかに落ちている種などを食べています。チツ、チツと鳴いていますが、本当にひそやかで目立たない冬鳥です。でも、その姿を見れば、アオジとはいいながら、お腹に黄色が目立つきれいな鳥です。



ツグミ

渡りの途中には、ものすごく大きな群れをなしていますが、定着するときは、少数の個体になって冬を過ごします。同じ仲間のシロハラに比べて、どちらかというと地面から高い位置でも動き回っているのでよく目立ちます。